

農林水産物の一大生産地を活かした「志布志港」における輸出拡大の取組

農林水産物・食品輸出促進計画(促進計画) 概要

- 志布志港は、背後地域が農林水産物の一大生産地となっているポテンシャルを活かし、国際コンテナターミナルを活用し、農林水産物・食品の更なる輸出促進を実施。
- 志布志港には、肉類と魚介類等の冷凍・冷蔵貨物を扱うことが出来る公共上屋がなく、また、お茶と製材・合板等のドライ貨物を扱う公共上屋の気密性が保持出来ていないことから、新たに冷凍・冷蔵施設等を整備し、セミナーや商談会の開催等により輸出環境を強化することで、南九州地域の国際物流拠点として、農林水産物・食品の輸出拡大を図る。

■ 主な対象品目:

主な品目	産地
【畜産物】牛肉、豚肉、鶏肉等 【農産物】キャベツ、大根、柑橘類、お茶等 【林産物】製材、合板等 【水産物】養殖ブリ・カンパチ等 【その他】加工食品(味噌、醤油、焼酎等)	鹿児島県 及び隣県

■ ターゲット:

アメリカ、香港、中国、台湾 等

■ 目標:

志布志港における農林水産物・食品の輸出額

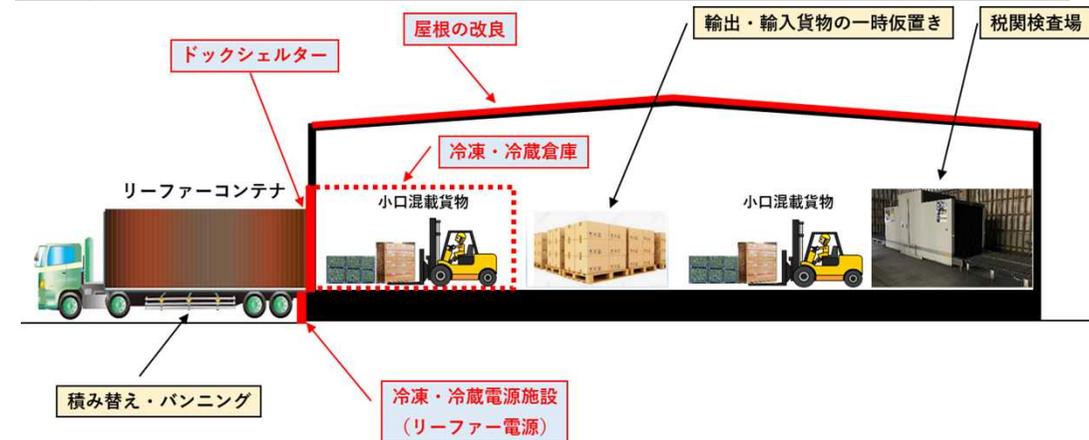
令和3年
(2021年)
実績額: 21億円

➡
約1.7倍

令和12年
(2030年)
目標額: 36億円

■ ハード整備の内容によるコールドチェーンの確保:

課題	① 冷凍・冷蔵機能が備わっていない ② 気密性が保持されていない
対応	① 冷凍・冷蔵施設等の整備 ② 屋根の改良(気密性の確保)



整備イメージ図(コンテナターミナル内の既存上屋)

■ ハード整備以外の取組:

- ・港湾利用者に対する輸出費用の支援
- ・商社や海外バイヤーを招聘したセミナー、商談会の開催